

研修のまとめ・ 演習ガイダンス



社会福祉法人 三井福社会
中北圏域マネージャー
飯室正明

福祉従事者(相談支援)の目的

- ①障害のある人の自立と尊厳の確保、社会参加の保障
- ②障害のある人のその人らしい地域生活支援
- ③誰もが暮らすことのできる地域づくり

⇒ソーシャルワーカーとしての役割



相談支援の基本的視点

- ①個別性の重視
- ②生活者視点、QOLの重視
- ③本人主体、本人中心
- ④自己決定〈意思決定〉への支援



相談支援の基本的視点

- ⑤エンパワメントの視点、ストレング
スへの着目
- ⑥権利擁護
- ⑦地域の多様な資源へのアクセスと
活用、資源開発
- ⑧チームアプローチ、多職種連携



個別支援から 地域支援へ

マクロ

地域・社会
(自立支援協議会など)

メゾ

家族・集団
(個別支援会議・事例検討)

ミクロ

個別支援

段階イメージ

参考:野中猛 小澤温資料一部変更

誰もが暮らすことのできる地域づくりへ

①地域を基盤としたソーシャルワーク (A),(B)



②地域福祉の基盤づくり (B),(C)

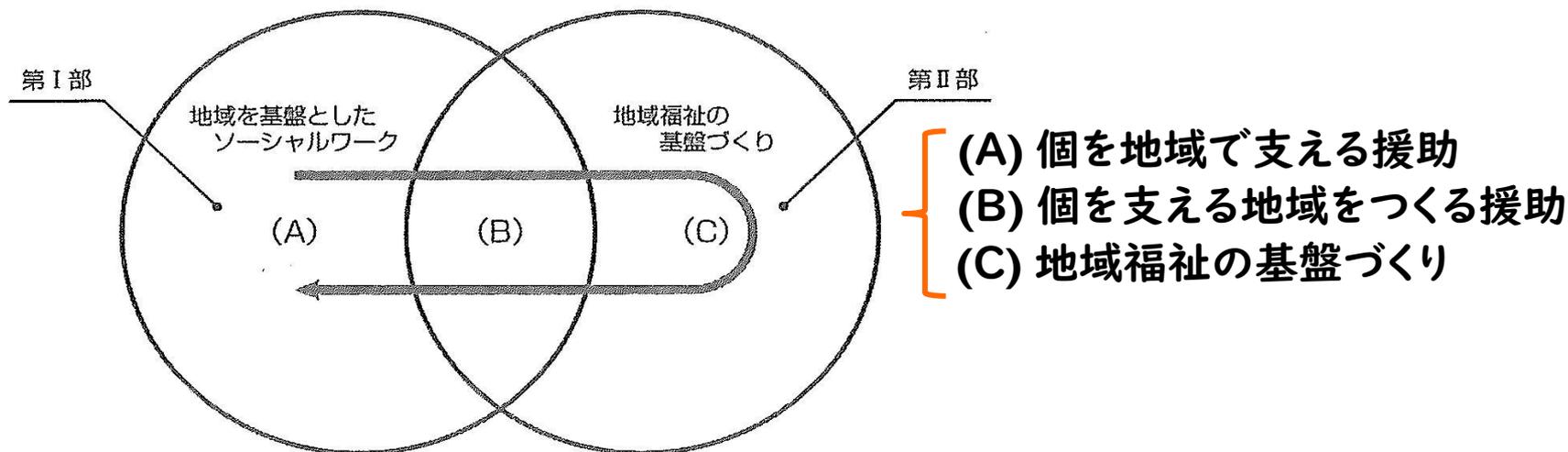


図2 「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の位置づけ

(地域を基盤としたソーシャルワークと地域福祉の接点より抜粋 岩間 伸之氏)

「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」

ソーシャルワークは、社会変革と社会開発、社会的結束、および人々のエンパワメントと解放を促進する、実践に基づいた専門職であり学問である。

社会正義、人権、集団的責任、および多様性尊重の諸原理は、ソーシャルワークの中核をなす。

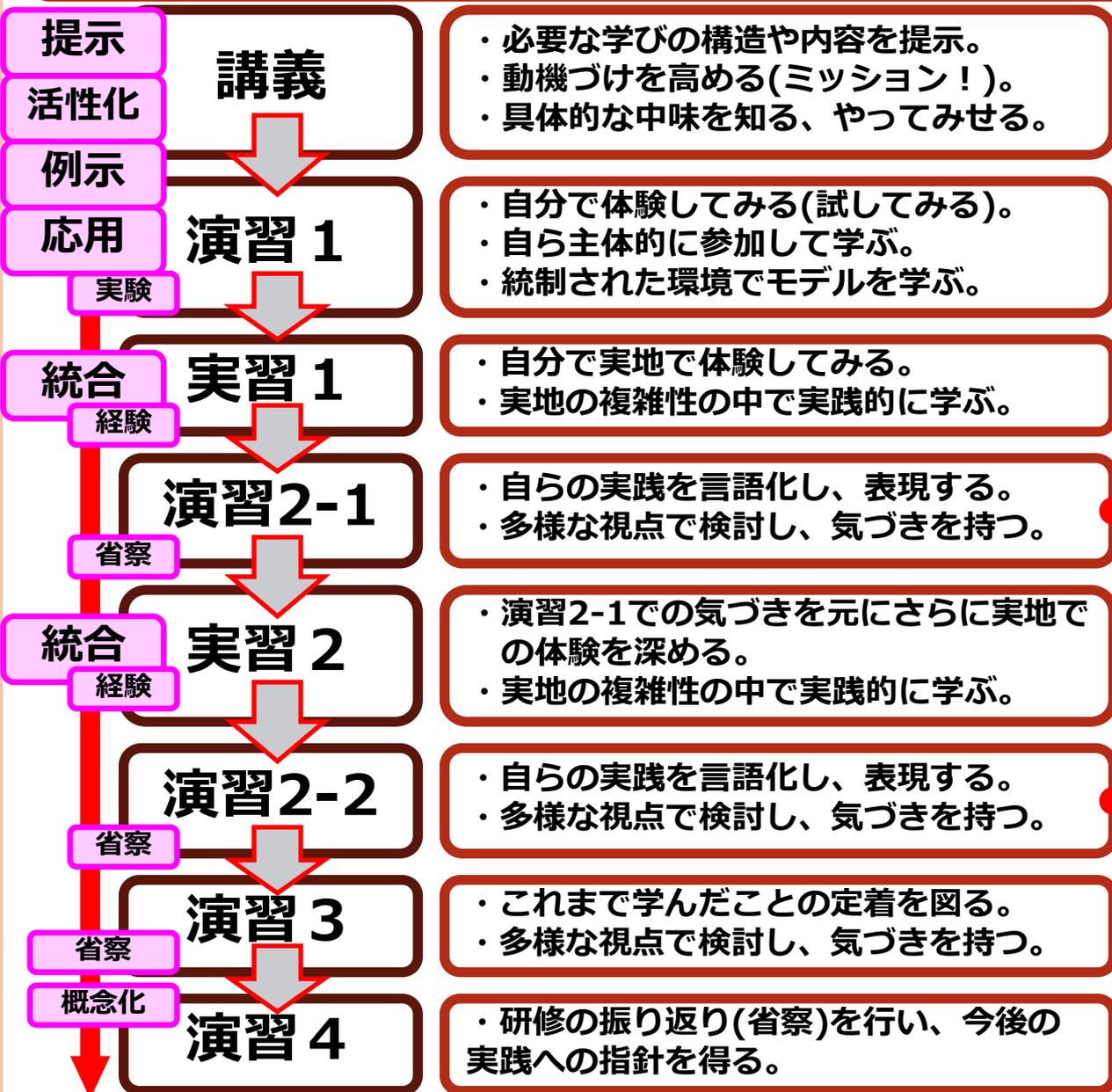
ソーシャルワークの理論、社会科学、人文学および地域・民族固有の知を基盤として、ソーシャルワークは、生活課題に取り組みウェルビーイングを高めるよう、人々やさまざまな構造に働きかける。

この定義は、各国および世界の各地域で展開してもよい。

理論と実践を結びつける

- ソーシャルワークの目的、視点、技術を福祉現場で実践できること。
 - 実践の中で私たちの支援の意味や価値を言語化できること。
 - 本人を中心に据えた支援についてあらためて意識し、そのためのチーム支援や、協議会などを活用した地域づくりへと繋げていく。
- 

この研修の構造



・ 抽象から具体へ
・ 理論から実践へ
・ 単純から複雑へ

現場に戻ってからも続けてほしい、スーパービジョンやケースレビューの体験を通して学ぶ。

1日目
9月2日(月)講義

2日目
9月3日(火)講義

3日目
9月19日(木)演習I
(モデル事例)

インテーク
(本人中心支援・関係性の構築・本人理解)
アセスメント

4日目
9月20日(金)演習I
(モデル事例)

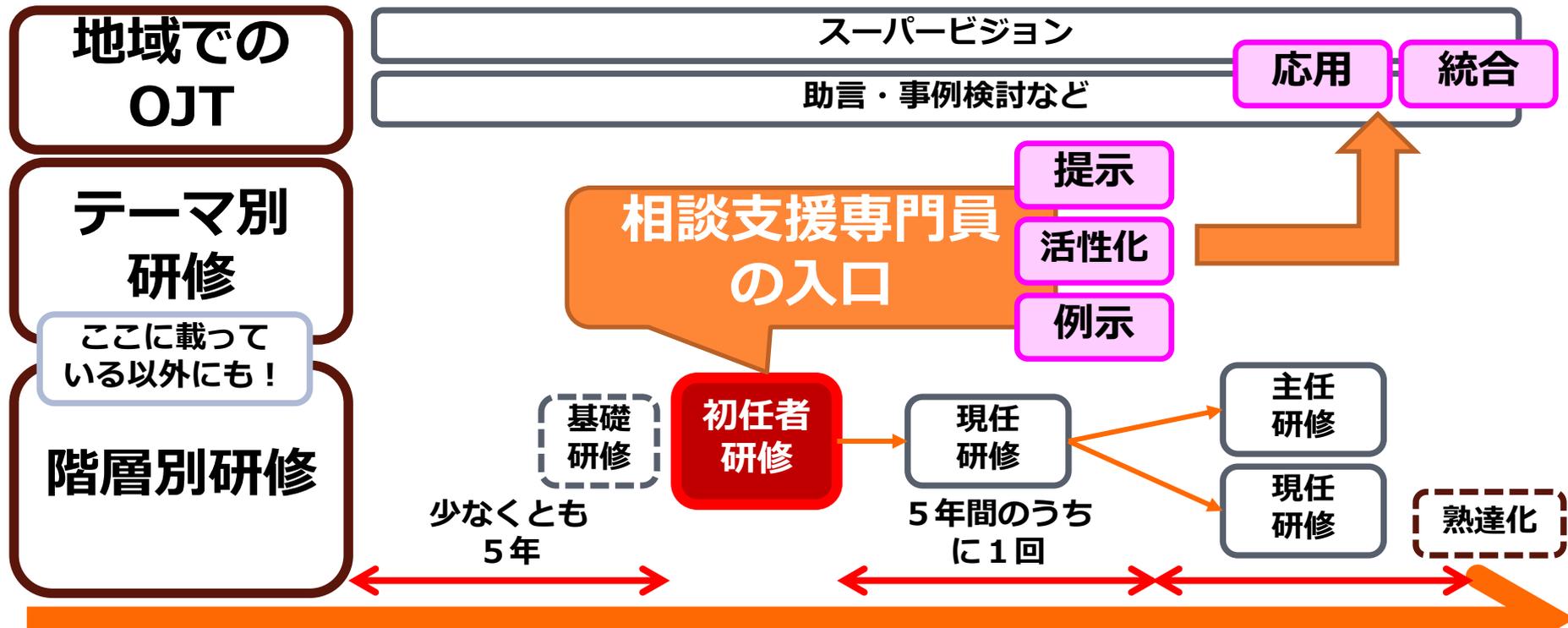
ゴール設定とプランニング
モニタリング・ターミネーション

実習①
(地域の基幹相談支援
センターへ)

①相談支援プロセスの実習(実際に障害当事者に対し、インテーク、アセスメントを実施)
②地域資源に関する情報収集
(所属事業所が所在する地域における地域資源に関する情報を収集する)

<p>5日目 10月25日(金) 演習2-1 (個別事例)</p>	<p>演習 GSV アセスメント結果の検討 (事例検討の体験) グループ毎に基本情報・アセスメント・ニーズ整理表の発表</p>
<p>実習②</p>	<p>③相談支援プロセスの実践(演習での他者の助言・自らの気づきを基に再度アセスメントを実施するとともにプランニング)</p>
<p>6日目 11月28日(木) 演習2-2&3 (個別事例・共通事例)</p>	<p>演習 GSV 再アセスメント結果と支援方針の報告と共有 グループ毎にサービス等利用計画について発表</p> <hr/> <p>演習(再アセスメント～プランニング前半)</p>
<p>7日目 11月29日(金) 演習3&4 (共通事例・地域づくり)</p>	<p>演習(再アセスメント～プランニング後半)資源活用のストレッチ</p> <hr/> <p>チーム支援・多職種連携 地域づくりの視点と地域課題の検討</p>

継続的な学びの中での初任者研修とその獲得目標



獲得目標

- ① 地域を基盤としたソーシャルワークとしての障害者相談支援の価値と知識を理解する。
- ② 基本相談支援の理論と実際を理解し、障害者ケアマネジメントのスキルを獲得する。
- ③ 計画相談支援の実施に関する実務を理解し、一連の業務ができる。
- ④ 地域づくりとその核となる（自立支援）協議会の役割と機能を理解する。

山梨県障害福祉従事者 人材育成ビジョン（抜粋）

山梨県障害者自立支援協議会
相談支援・人材育成部会

令和6年度改定版

山梨県人材育成に係る現行の研修体系

事業所で支援ができる人材

相談支援・サービス管理責任者ができる人材

地域の中核となる人材

演習指導の実践

研修講師、企画
演習指導の実践

障害福祉従事者スキルアップ
研修

・従事者の基本姿勢やソーシャルワークの視点を学び支援のスキルアップを図る。

専門コース別研修①②（相談・サビ児管）

①初任、基礎研修のフォローアップ
②現任に求められる専門性の強化
・分野別の理解、専門的視点や対応力の強化、ファシリテート力の向上等を図る

専門コース別研修②

法定研修

専門コース別研修①

主任相談支援専門員研修

任意研修

スキルアップ研修

相談初任者研修

法定研修

現任者研修

法定研修

サビ管更新

サビ管基礎・実践研修

地域の中核となる人材の育成

・困難事例等の事例検討による相談支援専門員の質の向上
・初任者研修に必要なファシリテーターの人材育成
・身近な圏域内の相談支援専門員の連携・強化
・地域福祉のリーダー的な関わり（分野横断的な対応）

相談支援専門員養成

・相談支援に従事する方の資質の向上
・サービス等利用計画作成についての理解

サービス管理責任者、児童発達支援管理者養成

・利用者の個別支援計画の策定・評価
・サービス提供のプロセス全体を管理

相談支援専門員のレベルアップ
（資格更新）

・地域づくりの視点がもてる
・自立支援協議会を理解し活用できる
サービス管理責任者、児童発達支援管理者のレベルアップ
・本人中心の個別支援計画作成
・日頃の業務の振り返りによるスキルアップ

事業所・地域のOJT

レベルに応じた障害福祉従事者像

- ・自己コントロール
- ・分野横断的な対応（ネットワーキング）
- ・地域の作りのリーダー
- ・ストレングス、アプローチ
- ・事例検討、スーパービジョンの実施

研修企画や演習講師

指導者レベル

- ・チームでの協働力
- ・意思決定の支援・権利擁護
- ・地域の社会資源の情報収集と共有
- ・チームアプローチ、多職種連携
- ・コミュニティーワーク
- ・コミュニケーション技術・生活のしづらさの理解

現任者レベル

- ・制度や福祉サービスの知識
- ・エンパワメントに着目した支援
- ・ケアマネジメントプロセスの理解
- ・ニーズの理解と支援を見立てる力
- ・アセスメント力 ・プライバシーの保護
- ・主体性の尊重・中立、公平性の保持・想いを理解し受け止める

初任者レベル

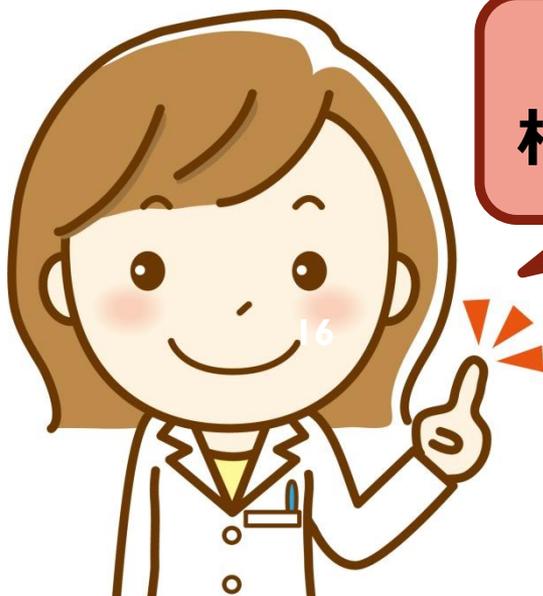
技術

実践

知識

価値

- ☑ みなさんにとってのミッションがつかめそうですか？
- ☑ 講義を受けて、あなたの考えた
「いい仕事(相談支援)」とは何ですか？
- ☑ 「いい仕事(相談支援)」をするために、
あなたはどうしますか？



ねえねえ。
相談支援ってなに？

講義が終わる今こそ
全ての参加者に問います。